

香港でシップウォッチング(1)

2025.12.30 池田良穂

ロイヤル・カリビアン社の「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の沖縄クルーズに乗船するために香港にやってきました。日本発着のお正月クルーズは結構混んでいて、家族6人のためのキャビンがなかなか取れず、取れても価格が高かったため、いろいろ探しているとロイヤル・カリビアン・インターナショナルからのダイレクトメールがあって、バルコニー付キャビンでも1泊あたり4万円という本クルーズを知りました。関西空港から香港空港までのLCCの料金は1人往復10万円ほどだったのと、久しぶりに香港でのシップウォッチングも満喫できるので、フライ&クルーズでの乗船を決めました。

5泊6日のクルーズの乗船前に、香港島のホテルに宿泊してシップウォッチングを楽しむことにしました。香港島のフェリー桟橋から1時間ほどの距離にある長洲島へフェリーで往復するのも楽しみでした。この航路には在来型旅客フェリーと高速フェリーが就航しており、前者は約1時間、後者は約40分の航海時間です。もちろんシップウォッチングに必須のオープンデッキのある在来型フェリーに乗船しました。フェリーとは言え旅客だけを乗せる純客船で、香港のフェリーによくあるように、1階は普通席、2階はデラックス席になっていて、それぞれ乗船口が異なり、一度乗船してしまうと船内での上下の行き来はできません。デラックス席の船賃は、シルバー料金で乗ることができて、わずか220円でした。この島では、港の海岸線に海鮮料理等の店が並び、店の造りは質素ですが、価格が安いので、多くの香港市民や外国人観光客で賑わう観光地になっています。到着してすぐに入った海鮮料理店では、席に着くと、大きなボールと熱いお茶のポットが出され、香港人のお客は、箸から食器まで熱いお茶で洗っていました。インターネットで調べてみると、屋台や飲茶等の店では、食器類が汚れている場合があるため消毒のための昔からの習慣とのことでした。

さて船ファンの筆者にとっては、この香港島から長洲島への航路の船旅は、コンテナハブ港の1つである香港のコンテナターミナルに出入りする大小さまざまなコンテナ船と出会えるので、香港に来たら欠かせない観光になっています。また、この長洲島航路は、香港とマカオとを結ぶ高速旅客船の航路とも一部が同じなので、ダイナミックに疾走するマカオ航路の高速旅客船の姿を間近に見ることもできます。



上海島・中環フェリー棧橋～長洲島航路の船旅



香港島から長洲島まで乗船した「新光」です。在来型の純客船です。ブリッジの下の層がデラックス席です。船尾にオープンデッキがあります。



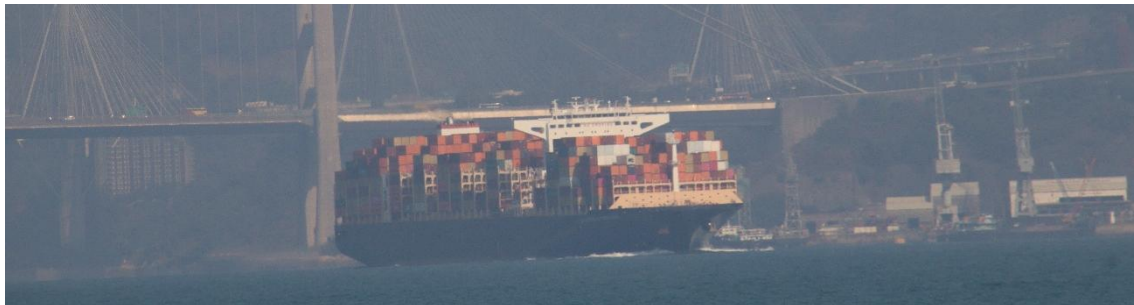
香港島と長洲島を結ぶ高速旅客船です。この船だと、ほぼ半分の航海時間となります。



香港のコンテナ埠頭の入口にかかる橋です。外にはフィーダー航路の小型コンテナ船がたくさん係留されていました。



航海の途中で、香港コンテナターミナルへの本航路と交差します。本航路を横切る小型客船と一緒に入りました。中央に船尾が見える2隻は入港船、左に見える1隻は出港船です。右の小さな客船は離島航路のようです。



本航路を航行するソーアイランダー型の大型コンテナ船と遭遇しました。全長 330m の巨大船です。



本航路の真ん中付近で長洲航路の僚船「新國」と反航しました。画面右側の2隻は香港のコンテナターミナルに向かう船で、左に写る船は出港してきた貨物船です。



長洲島に到着して入港するフェリーから見た港の内側です。様々な小型船がたくさん係留されていました。



長洲島から周辺の離島をつなぐ客船のようで、同型船がたくさんつながっていました。



長洲港につながる小型船群です。昼食をとったレストランの前からの撮影です。



長洲島の海岸に並ぶレストランのテラス席。



ワタリガニ料理

香港～マカオ航路の高速船

香港—マカオ航路には、青色の船体のコタイ・ウォータージェット社と、赤い船体のターボジェット社が双胴の高速旅客船を運航しています。筆者が乗船した香港～長洲島航路と航路が途中まで一緒なので、船上から全速航行するダイナミックな姿を撮影することができました。かつてはジェットフォイルも就航していました。



コタイ・ウォータージェット社の「ショップス・フォーシーズン」です。



「ザ・ロンドナー」です。



ターボジェット社の「ユニバーサル MK2005」は近接して反航しました。



「ユニバーサル MK2012」です。